

内容

* 第3回 Web セミナー

「災害への対応」(3)

～協定福祉避難所について～ 実施報告

社会福祉法人町にくらす会 理事長 志井田 美幸

大友 智美

廣瀬 聡子

* 第3回 Web セミナー

前号に引き続き9月14日(水)開催しましたWebセミナーの報告となります。

(長野)志井田さん、お許しいただけるなら僕がそちらに伺った時のパワーポイントを見つけたので、いま皆さんがこのセミナーに参加して頂いているベースになったことということで紹介しても宜しいでしょうか？

(志井田)どうぞ、どうぞ。

(長野)本当にたくさん勉強させていただきました。あの時に行かせていただいたことは、私たちにとってもとても大きなことで、とても勉強になりました。私たちが東日本大震災で最初に訪問したのが志井田さんのところ。その時現場に入った時の事をそのまま記録しようと思って残しているものがありますので、写真はあまりないのですが少し紹介させてください。

あまり纏まったものではありません。あの時は私と和泉さんと仁木さんにも手伝っていただきながら、後はNPO理事長の吉田さんで行かせていただきました。中野さんと土井さんが神戸経由で他の人をピックアップして新潟経由で東北に入りました。その時の生の声です。

支援先が「町にくらす会」です。間違っていることが多々あるかもしれませんがご了承ください。

利用者の方がいらっしゃり色々な展開をしています。

実は志井田さんと最初に連絡を取ったのは震災発生後5日目の3月16日でした。それ以前に仙台とは連絡を取っていて、これは動かなくてはいけないということで動いていましたが、茨城は当時こちらでもあまり報道されてなく、被害が軽いと思い、何とかなっているだろう、という陣中見舞い位のつもりで電話をしました。失礼な話ですね。

するとその様なことではなく、水も並ばなくてはもらえずガソリンも不足、入所の方を皆さん戻していましたが、茨城は被災地として軽く認識されていて物資が入らず、水は2日で500ml、食事は小さなおにぎり2個が限界、脱水症状が深刻、お薬は何とか医療機関に1週間分

110318-21茨城県ひたちなか市
震災支援

支援先

- 社会福祉法人 町にくらす会
 - 入所30名(8割が精神障害)
 - 通所30名
 - 就労支援
 - ACT など多彩に展開
 - 利用者 計156名(3障害)
- 茨城県ひたちなか市長砂

だけ確保して頂いた。トイレは職員さんの自宅に井戸が有ったので1日20Lが限界でしたが運んで、1日2回流すのが限界でした。便を溜めている部屋を作っているという話はとても印象的でした。市と何度も交渉すれども「そこは被災地ではない」とまで言われ、福祉避難所の指定などもなかったので物資も来ないという話で、アルコール消毒やオムツも底付き寸前で、更に放射能の心配から支援はどこからも得られなかった。

その時の志井田さんの声で、とにかく「水」と「米」と「塩」が欲しいと言われ、この言葉が今でも頭に焼き付いて離れません。志井田さん覚えていますか？あの時「ふりかけは？」と言ったら、「そんな贅沢なものはいらない」と言われました。

(志井田)本当にあの時は「白米」と「塩」だけで十分でした。

(長野)ことらも全く想像が出来ていないところで、失礼が一杯あったのだらうと思っています。

水のタンクもなければガソリンの携行缶もない、でもあの時志井田さんからは「水」「米」「塩」以外の言葉は出てこなかったのです。何度か電話で話しましたが、やはり要望は3点のみでした。道中進んでいく中で、やっと水のタンクや携行缶などがあつたらという言葉が出てきました。この様なことが当時支援を決めたきっかけでした。

これは当時志井田さんから頂いたお手紙です。水もほとんど確保できず食事も1週間に1食程度という、そんな状態だったのだということです。

それから動き始めたので時間は少し遅かったのですが、資材の確保など色々おこないトラックの確保もして19日にやっと仕事の段取りもできましたので、20日に動き始めて支援物資を確保しましたがガソリンが無かったので、どの様にして行けばガソリンが少なく行けるかルートも考えました。DMATなども未だ動いていませんでしたので、医師会や愛南町に報告して歩調を合わせるようにしました。それから緊急通行用の通行証を出していただいたりしました。でもそれだけでは無理があったので東京在住の仲間、和泉さんに要請をしました。和泉さんはひたちなかや茨城にサッカーの関係で何回も行っていたので土地勘があったので途中で合流してもらいました。和泉さんに現地でも水が無いということを伝えると、「ひたちなか市の水道局と相談してみる」と言ってくださり交渉の結果給水が可能になったという覚えがあります。

支援物資の調達では、既に愛南町でも水をまとめて購入することは出来なくなっていました。色々なものを色々なところに頼んで集めました。地元の方にお米を頼んだところ「お金出すなら売らん、寄付だから持って行ってくれ」と言っていたり、尾道にもすぐ動いていただき色々集めて今治まで運んでいただいたりしました。スーパーで手買いでは買えたので、何度も何度もレジに並び購入したことを覚えています。この様なことをしながら準備しました。

そして18日に愛南町を出て尾道の荷物を頂いたり色々集めたりしながら松山に1泊して、翌日も色々しながらフェリーに乗って、やっと現地に到着したのが20日でした。丁度この日、高速常磐道が通

支援要請

- ・ 3/16(水) (地震発生5日目)
- ・ 社会福祉法人 野に66すま 志井田美幸理事長へ長野が状況確認の電話。(被害が軽いとされ、それまでほとんど無反応とし、地方としても「なんとならう」という認識)
- ・ 地方の手厚さに感謝の状況
 - 電費、ガスは震災3日目以降も、水道が復旧済みなし。
 - 避難所運営はほぼなし。
 - 車は一日一人が能く使われてるが壊れないと入らず、入所者は不可能、スタッフも支援の為に壊れる。
 - 物資の不足
 - ・ 湯沸かすのにガス不足の心配
 - ・ 入浴設備はほぼ壊れて湯の温度も低くお風呂に入浴して居る方少ない。土上より、避難所として風呂設備が壊れてお風呂に入浴できず、風呂500円/20分、食事一食小売りに対して200円、スタッフも同様、飯も買えずは完全に避難所。
 - ・ 薬は運送する医療機関へ1週間分のみの確保して貰えない状態はのりきっている。
 - ・ トイレなどの衛生設備は長年の非から一日の間に、風呂が壊れる、一日の消毒の手が一杯。
 - ・ 避難所などに避難して居る方が少なくて、あるが避難所からはほとんど来ていないよう、止まて。
 - ・ 衛生用品(アルコール消毒液など)、おむつも不足が甚
- ・ 常磐道の普通と福島原発の放射能への心配から、各方面に支援を依頼したがすべて断られた。
- ・ とにかが水と「米」と「塩」が欲しい」と悲憤な支援要請
- ・ 続いて水のタンク、ガソリン携行缶
- ・ 糞尿、おむつ、生理用品、衛生用品、ドライシャンプーなどの要請
- ・ 給水入りを予定していたが、急遽、給水機とひたちなか市に頼った。

被害状況～先方からのお礼状より

春色のなごやかな季節、皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、町にくらす会の地域生活支援活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、3月11日(金)の『東北関東大震災』は、岩手県、宮城県や福島県に大きな被害を齎しました。

私ども、町にくらす会がある茨城県ひたちなか市も震度6弱を記録し、沿岸の地域には、4m20cmの津波が押し寄せました。

幸いなことに、それぞれの建物は、修理を必要とする状況に至っておりませんが、入所と通所されているご利用者様156名とそのご家族様、また、職員48名は、全員無事でございました。

しかし、地域の被害は大きなもので、停電が被災後3日間、断水が13日間続き、特に入所をされているご利用者様には、被災後、大変苦しい生活に耐えて頂きました。備蓄した水も食料も底をつき、市から配給された水は、2日間で500%の量を確保できるほど、食料は1週間に1食のみと少ない状況でありました。

支援準備

- ・ 3/19(水)
 - NPOなんぐん市場・四国クリーンサービス吉田良香氏へ3tアルミパナールバントラックの借入と吉田氏自身の応援要請
- ・ 3/20(木)
 - 支援物資調達要請確保
 - 宿、フェリー予約
 - 愛媛県医師会、愛南町へ報告
 - 東京墨田区在住 和泉逸平氏(愛南町出身)へ協力依頼。
 - ・ 茨城の道路事情、アクセスの調査
 - ・ 支援物資の調達(水貯留用ごみ箱90L×2、130L×1)
 - ・ ひたちなかでの給水可能なところへの交渉
 - 茨城県災害対策本部→ひたちなか市上水道局と交渉し給水可能に
 - 絆糸曲折あり...

支援物資の調達について

- ・ 米...僧都:大塚氏に依頼→3名の寄付を含め240kg、西本30kg、玉田オート30kg、尾道のぞみ会150kg
- ・ 水...ササカ薬局古川店長12ケース、尾崎酒店20ケース、愛南町内店舗で購入、尾道のぞみ会8ケース、正光会本部から手提缶で240ケース(愛南町内ははじめ店舗への入荷がストップしており手困難)
- ・ カップラーメン、ササカ薬局古川店長、尾道のぞみ会、正光会本部(店舗では個数制限で準備不可能)
- ・ 食品類→レトルト、缶詰、即席みそ汁、チョコレートなどを中心に愛南町内、松山直信グループ、徳島スーパーで手買い、相模(尾崎氏協力)、野菜類(尾道のぞみ会)
- ・ 衛生用品、ドライシャンプー(売切れがほとんど、愛南町内でかうじて6本確保)、おむつ、生理用品などは先方から銘柄、数量指定あり(愛南町内の薬局で購入)、エタノールなど消毒用品(愛南町で)、ウェットティッシュ類(随時各スーパーなどで多量に購入)
- ・ ガソリン携行缶→愛南町内ホームセンター+平和島
- ・ 水のタンク→500Lと300L(愛南町サンキョー)、20Lタンク15個ほど

支援旅程一行き①

- ・ 3/18(金)
 - 14:00愛南町出発
 - 17:00今治着 尾道のぞみ会からの支援物資が11:30今治病院へ、今治タオル 効率的に積み込み、今治スタッフの大応援
 - 18:00すぎ今治発→松山へ。重信ダイキ、グランフジで3時間程物資の買い出し。十釣り具屋で保冷発砲スチロール調達。
 - 22:00宿泊場所。松山星の岡岡泉到着

れるようになった日でしたが、まだかなりの段差があるような路面でした。そして「町にくらす会」に支援物資を持っていかせていただきました。水については大きな水タンクやポリタンクが有ったので水中ポンプを購入して、ワンボックスの車に水タンクを設置して、和泉さんが交渉しておいてくれた浄水場に行き水が汲める仕組みを作って、何度か出向いて水を汲ませていただきました。実はこの経験が豪雨災害の時に物凄く活躍をしました。豪雨災害で水タンクと直ぐに思ったのはこの経験からです。この様なことをした覚えがあります。

帰りの時は、もう山を越えられていたのだと思いますが、丁度開いていたうどん屋さんで志井田さんにご馳走して頂いたのが、「何しに来たのかわからないな」と思いながら、凄く美味しかった思い出があります。

実はそれから那珂湊とかぐるぐる見て、帰らせてもらったというのが当時の動きです。

帰りも色々ありますが、支援先からの情報が色々あります。でもなかなか情報は入らないし、こちらも実感を持って受け取れないので、失礼な電話を何度も何度もしたような覚えがあります。

感じたことです。

被災が軽くみられる。「あそこよりここよね」という様な感じです。東北震災で茨城は入れてもらっていないから、何も入ってこない。それから縦割り行政、コロナでもそうですが従来のルールで行政が動くとするので、そここのところの弊害は人の命を奪うな、と感じています。そこで福祉施設が取り残されたということです。水も得られない「皆さんと平等に並んでください」ということです。豪雨災害の時も同じようなことがありました。茨城の状況を見ていたので、水を配る仕組みを作ることや、隙間ができるところに如何に早く入ることなどを学んだような気がします。

和泉さんもツイッターにその時の言葉を挙げていたので、そのままを記載しました。理事長は何も食べない状況で「地域の貢献しなければ」と凄く無念そうにされていたとか、本当に必死にされていました。後は電話と書面では無理だということや、食べる事とかでこんなに大変なことが起きるといことなど書かれています。

この時情報ツールでツイッターがとても有効でした。私がSNSを全部今も使っているのは、この時の経験からです。ツイッター、SNS、インスタなど全部やっています。全部を使い分けて、ツイッターのフォロワーも敢えて2000人位作っているのは、情報を拡散させて収集するためで、熊本の時も数多くツイッターで情報を頂きました。当時は未だLINEが無かったので、先ほど電話とメールの話を沢山しましたが東北災害の教訓をもとに開発されたのがLINEと言われています。これからは電話・メールのLINEグ

支援旅程一行き②

- 3/19(土)
 - 5:45宿泊地出発
 - 8:15徳島着
 - 軽油給油+携行缶へ80L充填
 - ローン、スーパーなどで卵やベーコンなど保冷が必要な食品含む支援物資購入
 - 10:15津田港 フェリー乗り場到着
 - 11:00フェリー搭乗
- 3/20(日)
 - 6:30有明フェリー乗り場到着
 - 和泉逸平氏合流、運転をお願いし出発
 - 7:30 豊田区和泉氏宅で支援物資調達
 - 首都高直道→常磐道→北関東道水戸閉心(それより先は通行止め)
 - ・ 高速度が地震により凹凸あり、周辺建物被害あり
 - ・ ほとんども車道面なし(ガソリン不足、放射能おそれ)
 - ・ 常磐道のSAはガソリン給油で長蛇の列。
 - 国道6号経由でひたちなかへ。道中、道路の亀裂、段差著しくかなりゆづり走行、周辺建物被害、ガソリンスタンドの行列。ほとんど走行車両、通行人とともに閉じ、閉じている店舗は皆無。
 - 9:30無事到着。

支援旅程一帰り①

- ・ 作業終了後、近隣のうどん・そば屋がその日から営業していることが分かり、志井田理事長、茂木氏、と我々5名で会食。震災以来の温かい汁物だと...。店は自家井戸の水源をもっておりかろうじてメニューを絞る営業。サービスが、量がとても多い...
- ・ 食事後、津波被害の深刻な海岸部へ視察に。
 - 阿字ヶ浦海岸、那珂湊
 - 海岸には輸送用の巨大なコンテナが流れ着き、那珂湊では床上浸水の被害が甚大。
 - 道路の損傷も著しい。

支援旅程一帰り②

- 3/20(日)
 - 17:00すぎひたちなか市出発
 - ・ ちらほらと営業をはじめているコンビニ、八百屋、魚屋があり志井田氏、茂木氏に情報提供
 - 19:00 豊田区和泉氏宅と分かれ
 - 中央道へ。途中、都内で道に迷ったがなんとかもとのルートへ。
 - 道中、宿泊先の確保。計画停電で休業しているホテル多し。
 - 21:30山梨 石和温泉(山梨出身の志井田氏おすすめ)
- 3/21(月・祝)
 - 8:00山梨発
 - 中央道→名神→阪神→淡路→17:00松山→19:30愛南
 - 長野県内のSAで給油制限(5L、10L)。もしくは営業停止。かなりややゆりながらも、岐阜県に入ると満タン可能。京都あたりから徐々に交通量が増えたが渋滞はなし。長野以北は交通量極めて少ない。

支援先からの情報

- ・ 仙台、釜石ばかりがクローズアップされて報道されている関係もあり、情報も物資も支援も皆無に近い状況。
- ・ 施設スタッフも完全に虚勢。入所者も脱水状態、水も食糧もない状況で、行政からは地域への支援要請や障害者の受け入れ要請、対応不可能、しまいには「そこは被災地ではないでしょう。他に大きなことが起きます」と言われる始末。
- ・ 風からは建物被害の状況、入所者数などの問い合わせがあったのみ。
- ・ 市役所の担当課が親身には相談ののって来たが全く解決の糸口なし。
- ・ 近くの浄水場が復旧している情報は全く入らず。(和泉氏から連絡しようや情報入手)
- ・ 原発問題で支援に入ることを回避された。
- ・ 水不足でトイレの衛生面が極めて深刻。一日2回井戸水で洗すのがやっと。
- ・ 近隣の精神科病院では、ビニール袋に便をし、燃えるゴミとして、スタッフにいわく「糞まみれ、尿まみれ」
- ・ ガソリン不足で出動できないスタッフ多し。
- ・ もちろん通所の送迎も不可能。で訪問2回/1日で支援
- ・ 訪問用に急遽、自転車3台購入。
- ・ 密にお付き合いしているGSから、緊急車両用のガソリンを優先的に譲ってもらえる手はずがあったが、ガソリン携行缶が入手できず頓挫。
- ・ 近隣住民が一回炊き出しにきてくれた...が、
- ・ 当面の家は近所を回り少すづつわけてもらった。
- ・ 入所者は脱水などで精神症状悪化、イライラ感が特に強い。

感じたこと

- ・ 「建物被害=被災」とみられる傾向。被災地の定義が極めて難しい。被災地とみなされなければ支援は入らない。今回がよい例。
- ・ ひたちなか住民のツイッターで、今回ほど、茨城が東北だったらよかったと思ったことはないと言った。
- ・ 縦割り行政の弊害が災害時顕著に。浄水場に行ってみると、もひとつちなか市の保健福祉課の職員で志井田理事長と親しい方がいるにも関わらず、情報が入らない。さらに、市役所は「お任せです」とか「お任せはいいわしら」になることも多い。今回和泉氏「災害対策本部」→「上水局電話対応」→「災害対策本部」→「上水局所長」→「浄水場」とたらいまわしの上やうやう。
- ・ 周辺街中は建物被害が少ないせいにか、平穏な雰囲気。井戸をもつ家庭も多いよう。
- ・ そんな状況なので、福祉施設が取り残された。近隣の老人施設も同様の状況であった。
- ・ 給水所や非難所に出向けない方に対する支援は皆無。(他地域でも同様)
- ・ 避難所で、床上浸水で雑菌が全滅した。雑菌の活動を懸念して、雑菌がらに「片づけをしてたら...」が、機械もラックのため、量の注文が一杯入るけど対応できない。全部を失った。もう事業の再起は不可能。けど、東北のことを思うと、復旧があるように思われるわい。」と
- ・ 本家だと観光客でにぎわう那珂湊もずいぶん片づけている人以外はおらず。
- ・ 陸地から300m以上内陸への広範囲な床上浸水被害にもかかわらず、ボランティアなどは全くおらず。
- ・ 「被災地」の定義が極めて難しい。

感じたこと(和泉氏ツイッター)

- ・ 入所施設の理事長も、ほとんど何も食べられない状態で過ごしていたそうでした。地域の方も炊き出ししてくれたそうですが、こんなときこそ施設が地域に貢献しなければいけないのに無力だと無念そうにしていたのが印象的でした。
- ・ 今回の経験は、豪雨で被災したときの経験にもなる。豪雨から3トラックで仲間が乗り込んできました。避難のコミュニティの形成、被災時の綿密な計画を持っていないと乗り切れないと実感しました。困難は目に見えないところにもあります。電話と書面だけの把握は不可能。
- ・ 障害者入所施設、震災より1週間、ひとり2日で水500ml、食事は小さなおにぎり2個。皆、脱水で、尿が真っ茶色。それでも断水だけなら被災地にみなされたいそうです。本来、福祉施設は避難所と同様に被災者を支える。地域の老人ホームも皆入所施設で援助するのは自然なことと思う。

ループが絶対有効だと思います。茨城でSNSを駆使するという
ことを教えていただきました。

後は土地勘です。災害になると道も標識も無くなるので土地勘
は凄いなと思います。熊本の時もですが、娘が熊本に行ったとき
何か有った時に道を覚えておかないと、と思い付近を色々と回っ
てみます。それは今でもやっています。細かな道とかどこを通った
らどこに出る等走り回っています。そこにいたら東西南北が、スッと
分かることはとても大事です。これも茨城から得た教訓です。それ
と交渉力ですね。

支援があれば効果は凄く高か
ったと思いますが、支援が無く命
を落とされたり、あんな状況が起
きたりということは、茨城で教えて
もらったことです。

これは当時の写真です。和泉
さんの家の前で、後ろにスカイツ
リーが見えるところ。この様にトラックに積めるだけ積んでお伺い
した覚えがあります。

志井田さん、ビール持って行ったのを覚えていますか？

(志井田)覚えています。赤いタンクと大きい黄色いタンクでお水
を届けていただいたことが一番で、届けていただいたタオルは今でも
使っています。

(長野)良かったです。洒落と言ってビール積んで宝くじを買って
いきました。これだけ悪いことがあったのだから宝くじが当たるだろと持っていきましたが、当たったという話
は聞かなかったのでちょっと残念だった覚えがあります。こんな状況でしたね。

この写真には志井田さんがチ
ラリと、後ろ側が志井田さんです
ね。写真もあまり撮らなかったの
で、これ位ですね。

これは施設の中ですね。あんな
にトラックに積んだつもりでした
が、たいしたことないと思った記
憶があります。

これは那珂湊の市場の写真ですが、志井田さん達は行かれて無
いですよね。

(志井田)行けてないです。この様な状況は初めて見ました。

(長野)仙台や石巻、女川の人も一緒なのですが、余裕なくて周りの
事は解らないので写真が欲しいとよく言われます。

これも那珂湊で、初めて行った時の港の様子です。10年経ってど
の様になったかは、是非見に行きたいなと思っています。

次も途中で見た風景ですね。

それから先程の指定避難所の話ですが、このスライドは当時考えたことです。

インフラがある程度整った「福祉施設」こそ地域住民の避難所にすべきではないか。これは東北でも全

その他

- 情報ツール、経過報告にツイッターが極めて有効であった。
- 茨城に土地勘のあり、交渉力にたけた和泉氏の参加が大きかった。
- 情報・物資の孤立から生んだ震災被害で、一日の支援効果は極めて高かったと思われる。「支援があれば解決」「なければ...」



く同じことを思っていました。福祉避難所もとても大事なのですが、そこを指定避難所にできると助け合いも発生します。また先程の話で、福祉避難所は協定だけで指定避難所は毛布の数まで全て設定されている、という様に圧倒的に指定避難所に対する力の入れ方が違うので、更のそこから展開していきますが、「スペース」があれば指定避難所を取っておくということは、とてもアリなのかなと思います。特に廃校利用などの福祉施設もだいぶ増えてきているので、福祉避難所と指定避難所を共に取れていて皆とやれるととても強いと思います。ここにめがけて物資が落ちてくるので、と思った記憶があります。愛南町でもそこを上手くやろうと思ってもうまくいかないの、医療災害コーディネーターを自分で引き受けて、何とかコントロールしようと思っているところです。当時、教えていただいたことですが物資は指定避難所でないと来ない。後で写真をお見せしますが、東北石巻でも全く同じことがあったそうです。

そして情報の話ですが、一番弱者がいる福祉施設への支援・情報が一番最後になっていました。情報は取りに行かなければ来ない。通信インフラがダメになっていると、とにかく情報が来ません。現場を守るのが精一杯で情報収集ができません。ここが一番問題なのだろうと思います。余力のある住民が弱者を支援できる仕組みを作ったりとか、その様な組織があったりすることが重要と感じます。

後は皮肉にも、山の中や高台にあるなどの福祉施設も結構多いので、立地の利点は行かせないだろうか。大船渡の社会福祉法人が高台に有って、そこで支援をしながら活動していて、当時ガソリンの事でとても困ったので廃業するガソリンスタンドを社福として買い取り、普段は自分のところの公用車などにガソリンを回しつつ、災害時エネルギーのインフラにするという活動もしていました。この様なことも社福としては十分できるのかなという風に思います。

それからリーダーシップはやはり必要だなと思いました。変な話ですが災害時に誰が亡くなるかは分かりませんし、誰が生き残るかも分かりません。色々なことを考えてリーダーシップのとれる人間を沢山作っておくことがとても重要だと思います。これは当時の直感で、東北に行って帰って直ぐに書いた文章だと思いますが、今も全く変わりません。

この様なことが、いま震災から11年経って皆さんのところで取り組まれているということは、何か凄いことだと思って今日のお話を聞かせていただきました。

もう1つ写真を共有させてください。これが石巻の「ひたかみ園」という知的障がい者の入所施設だったところです。実はこの金網のところまで津波が来たところです。本当に津波との境だったところです。当時この施設は老朽化で建て替えをするため入居者は別のプレハブに移っていました。そのためこの施設は福祉避難所にしていませんでした。しかし自衛隊が一般の避難所で対応できないような人たちを、ここに障がい者施設があると言って多くの方を運んでしまいました。そのため「ひたかみ園」の職員が対応した経緯があります。しかし福祉避難所ではないからと、全国からの寄付は多く寄せられたそうですが、公的な物資は集まりませんでしたし、他の福祉避難所には様々な費用の補助があるのですが、ここではスタッフや運営の費用の補填など全く受けられませんでした。

縦割り行政では災害の時に臨機応変な対応は出来ませんので、その様に指定を受けておくということは明暗を分けていく、ということを感じた施設でもあります。

この様なことが今日の話聞いて思い出したところです。

廣瀬さん色々なアイデアは浮かびませんか？

(廣瀬) 当時の事を思い出していて、震災発生の日か後に志井田がNHKのラジオで話をする機会がありましたが、やはりその時に「本来光が当たるべきところに当たっていない、取り残されている」と話して

今後の愛南町の防災を考えると...

- インフラがある程度整った「福祉施設」こそ地域住民の避難所にすべきでは。
- 一番の弱者がいる福祉施設への支援・情報が一番最後になっていた。(他地域でも同様の状況)
- 余力のある住民が弱者の支援をできるしくみ、かつ、食糧備蓄、予備発電、給水タンクなどが整っている。広さもある程度確保できている。
- 高台にある施設も多い。(自在園、御荘病院、なんぐん館？、一本松荘、みしま荘、柏寿園？など)
- 災害対策本部のリーダーシップが問われる。縦割り担当によるたらいまわしが「死」をまねく。



いたことがとても印象的で、そもそも震災が起きたときに一気に停電になり、東北の津波を知ったのは停電が復旧しテレビが点いた瞬間に「水が田んぼを走っている」のを見て、「いったいこの日本に何が起きたのだろう」という位ビックリしました。やはり情報が入ってこない。情報を得ようと携帯に電源を入れようと思っても、電池が無くなってしまうので常時電源を入れておくこともできない。このような状況になると情報をどれくらい収集できるか、どの様に入ってくるかということはとても重要なことだと東北の時に痛感しました。

(長野) 私たちは東北に行くたびに、「新聞や週刊誌を持ってきて欲しい」と言われていたので、出来るだけ貯めて持って行って行っていました。それでいざという時に情報はどの様にされていますか？

(廣瀬) やはり震災があった時、先ほど志井田が話しましたが、指定避難所に行ったとき我々と一般避難者が同じ場所で避難することは難しい、という状況になりました。それで福祉避難所になれなくても自分たちで自分を守っていける様な力を付けていかなくてははいけないと感じました。我々は福祉施設を運営していますので、決められた数の備蓄品などは揃えておかななくてははいけません。それで先ず自分自身で生きていく力を付けることと、近隣の方々のお力を借りながらやっていくということが重要と感じています。

(長野) 情報の取得手段は如何ですか？先ほどの電話とメールは間違いなく止まると思うのです。Lineの話もしましたが、通話は出来ないけどインターネット通信は通話より先に戻ったということもありますので、少しでも取得手段を増やしておくということがとても大事な事だと思うのですが？

(廣瀬) そうですね。具体的にこの様なツールでという話にはなっていませんが、無線を使ったらなどの話はあります。ガソリンはありませんが自分の体はありますので、自転車を活用して安否確認はしていました。情報が入ってこないなら自分たちが収集しに行くということでしょうか。きちんと道筋ができるまでは。

(長野) どの様に情報取得ツールを手に入れるか、ということは動き出すと意外と簡単に手に入ることもあります。実は僕はアマチュア無線4級を取りました。勉強したのは2日です。勉強すれば目をつぶっていても合格するくらいの試験です。法人でアマチュア無線局を作っておくのも一つの手です。やるか、やらないかなので、時間は作れるので、やっておけば良かったと後悔するのは嫌なのです。実は愛媛県の医師会で取りまとめてやったのですが、かなりの人数の方が免許を取りました。皆さん死活問題なので、これで運転免許無くなっても身分証明書になる、などと訳の分からないことを言っていました。勿論医師会では衛星電話も設置しています。今度市に要請するとしたら、災害時優先される衛星電話ですね、衛星電話も一般の衛星電話では無く、災害時に優先される衛星電話があります。でもそれは維持費がとても高いので、福祉避難所に設置して欲しいと協定を結んだ市に要請して設置出来ればすごく有効な手段かも知れません。

(廣瀬) 先日、NTTドコモやAUの通信障害がありましたので、災害時でなくても通信手段を確保しておくということは重要で、必要なことだと感じています。

(長野) この辺りの事を突き詰めておくことは重要なことかなと思っています。

本日は有り難うございました。

本紙での報告はここ迄とさせていただきます。



—編集後記— 今回災害に際しての情報、指定避難所の重要性など貴重なお話をいただき有り難うございました。その中で最近、読売新聞の地域版に「精神科病院を福祉避難所に指定、県内初」という記事が掲載されました。これは埼玉県で5番目に大きい越谷市(人口35万人弱)が今年9月に精神科「北辰病院」を福祉避難所に指定したということで、昨年5月の法改正を受けての支援拡充とのこと。病院を運営する医療法人理事長は「40年前に開院する時、『精神病院だから』と周辺住民から反対運動もあり、粘り強く住民を説得してやっと開院できた。その時、医療機関として地域の役に立ちたいと誓った。ようやく実現できた」とあいさつされたそうです。越谷市は今まで福祉避難所は24施設ありましたが、公共施設や民間特別養護老人ホームなどでした。この様な事が各地に広がることを望むばかりです。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会